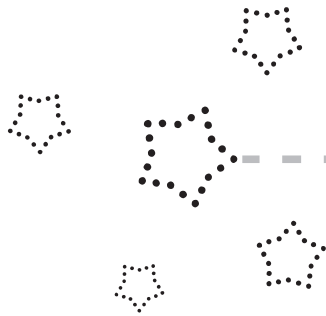


第2部 テーマ別調査結果の分析

第1章

働く母親の子育ての特徴

高岡 純子
邵 勤風



近年、政府が打ち出した一連の子育て支援政策、女性の就労状況や母親世代の変化は、働く母親の子育て意識や行動に影響を与えていると考えられる。

分析を行う前に、まず近年政府が行ってきた子育て支援に関する政策や、女性の就労状況の変化といった時代背景を整理したい。次にこの時代背景をふまえて、本調査の結果について、母親の就業状況に焦点をあてて、働く母親の子育て意識と行動の特徴を明らかにする。最後にそこからみえてきた課題を考察したい。

● 1990年代からの政府の子育て支援政策

1990年の「1.57ショック」から、少子化が大きな社会問題となった。子育てを個々の家族のこととしてではなく、国、企業、地域も含めた社会全体で支えていくことととらえ、政府は子育て支援に力を入れるようになってきた。働く女性の仕事と子育ての両立への支援などを含め、子どもを産み育てやすい環境づくりのため、1994年12月に「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について」（エンゼルプラン）、1999年12月に「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について」（新エンゼルプラン）が打ち出された。また2003年に「次世代育成支援対策推進法」が施行された。国として子育て支援制度を少しずつ整備してきたといえる。

地域の子育て支援センターが充実してきたことなどから、これらの施策には一定の効果があったと思われる。しかし、家族の子育てに対する不安な気持ちは軽減されたのだろうか。本調査は国の子育て支援施策の効果を検証できないが、母親の子育てに関する意識や

行動の経年変化をみることができる。次節では、とくに働く母親に着目してみたい。

● 女性の就労状況の変化

ここで、子育ての重要な担い手である女性の近年の就労状況の変化をみてみよう。本調査対象の母親のうちの3割を占める30歳～34歳では、1990年代からは就業者が増加している一方、3割を占める35歳～39歳では、横ばいである（p.152 図1 総務省「労働力調査」より）。また、雇用形態別の役員を除く雇用者（非農林業）の構成比率の推移をみると、1989年では、「正規の職員・従業者」64.1%、「パート・アルバイト」32.5%、「その他」（労働者派遣事業者の派遣社員、契約社員・嘱託、その他）3.4%だった。しかし、2007年では、それぞれ46.6%、40.6%、12.8%となっている（図表省略。『男女共同参画白書平成20年度版』より）。正規社員が減少し、パートや派遣社員、契約社員といった非正規雇用者が増加していることがわかる。25歳～34歳、35歳～44歳の女性の雇用形態の推移から、同様な傾向がみられた（p.153 図3 総務省「労働力調査」より）。

本調査では、働く母親の雇用形態に関するデータをとっていないが、「常勤（フルタイム）」には派遣社員や契約社員・嘱託が含まれていると推測される。次節では、母親の就業状況別のデータを分析していくが、常勤の母親の数値の変化は前述してきた女性の就労状況の変化と関連していると考えられる。

● 母親世代の違い

調査対象となった母親はそれぞれどのような世代なのだろうか。母親の平均年齢が34、5歳と考えると、第1回調査を実施した1997年の母親の一部は1980年代半ばから後半に就職した、「男女雇用機会均等法」(1986年)が施行された最初の世代にあたると考えられる。第2回調査の2003年と、第3回調査の2008年の母親はいずれも、いわゆる「就職氷河期」

に就職した世代であると思われる。

本調査結果を分析する際に、このような母親世代の違いが母親の子育て意識と行動に影響を与えていると推測できる。

本節では、働く母親の子育て意識と行動に影響をおよぼしそうな時代背景を整理してきた。次節では、それらの時代背景をふまえて、母親の就業状況別の具体的なデータから、働く母親の子育ての特徴を考察していきたい。

第2節

しつけや教育についての意識・実態

母親の就業状況別での子育て意識、しつけや教育方針、子育て情報源、悩みや気がかりなどのデータから、働く母親は子どものしつけや教育に熱心になっていることがわかる。一方、働く母親はさまざまな悩みを抱えている様子もうかがえる。

(1) 子どものしつけや教育に熱心な働く母親

● 子育てやしつけに関する意識

まず、子育てやしつけに関する意識の首都圏全体値と母親の就業状況別の経年変化をみてみよう(表2-1-1)。

全部で10対の項目のうち、3対の項目を取りあげてみる。首都圏全体では、03年調査と比べて、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」と考えている母親は、7.1ポイント減少している。「世間で名の通った大学に通ってほしい」は3.1ポイント微増している。総じて子育てを大切にす母親、学歴へのこだわりが強くなった母親、しつけを重視する母親が増えているといえる。

さらに母親の就業状況別にみると、それぞれ増減の幅は異なるものの、専業主婦、パートやフリー、常勤の母親ともに全体と同様の傾向がみられた。とくに常勤の母親では、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」との回答は8.3ポイントも減少しており、専業主婦や、パートやフリーの母親と比べ、下がり幅がもっとも大きい。専業主婦と同様に、子どものしつけや教育、子育てに熱心な働く母親が増えているといえる。

● 家庭でのしつけや教育方針

次に、家庭で子どもを育てていくうえで、とくに心がけていることをたずねた結果をみてみる。「その他」を含む19項目のうち、上位を占める項目や、経年で数値の変化が大きい10項目を表2-1-2にまとめた。全般的

には正しい生活リズムや子どものしつけについて、5年前と比べ、より心がけるようになり、また「食」に気がついている母親が増えていることがデータから読み取れる。

さらに母親の就業状況別のデータをみてみよう。どの属性の母親も、比率が増加している項目はほぼ同じである。その中で、03年調査と比べて10ポイント以上増加している項目の数をみると、専業主婦は「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活リズムが身につくようにしつけている」(「生活リズム」と省略、以下同)と「手作り料理を食べさせるようにしている」(「手作り料理」と省略、以下同)の2項目である。パートやフリーの母親は、「生活リズム」と「テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ時間は決めている」(「ゲームの時間は決める」と省略、以下同)の2項目である。一方、常勤の母親は「生活リズム」「手作り料理」「ゲームの時間は決める」の3項目である。

それぞれの属性の母親の経年での変化をみると、働く母親の数値がかなり専業主婦の数値に近づいてきており、とくに常勤の母親では、数値の増加幅が大きい。

この質問では、「心がけていること」という意識をたずねているので、それが直接、行動に結びついているかどうかは不明ではある。しかし少なくとも、働きながら、さまざまな制約の中で子どもの規則正しい生活リズムや食への配慮、しつけなどに気をつけている母親が増えているといえる。

表2-1-1 子育てやしつけに関する意識（経年比較 首都圏全体・母親の就業状況別）

(%)

	首都圏全体		専業主婦		パートやフリー		常勤	
	2003年 (3,477名)	2008年 (3,069名)	2003年 (1,709名)	2008年 (1,619名)	2003年 (950名)	2008年 (795名)	2003年 (631名)	2008年 (419名)
A. 子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい	63.8	> 56.7	62.0	> 54.2	64.3	61.0	69.4	> 61.1
B. 子どものためには、自分が犠牲になるのはしかたない	34.5	< 41.8	36.7	< 44.4	33.7	38.5	30.0	< 38.4
A. わがママを言ったら、たたいてでもしつける	34.2	30.8	37.1	> 31.1	31.4	33.3	30.6	29.4
B. わがママを言ったら、わかるまで言葉でさとす	62.4	65.0	60.2	< 65.7	64.9	63.1	66.9	67.3
A. 世間で名の通った大学に通ってほしい	18.1	21.2	20.7	24.1	13.9	17.4	17.0	21.2
B. 大学進学や学校名にはこだわらない	79.8	77.0	77.6	74.9	84.4	81.6	81.8	77.1

注1) 10対の項目のうち、3対の項目を表示した。
 注2) 無答不明があるため、AとBの数値を足しても100%にはならない。
 注3) <>は5ポイント以上差があるもの。

表2-1-2 家庭でのしつけや教育方針（経年比較 首都圏全体・母親の就業状況別）

(%)

	首都圏全体		専業主婦		パートやフリー		常勤	
	2003年 (3,477名)	2008年 (3,069名)	2003年 (1,709名)	2008年 (1,619名)	2003年 (950名)	2008年 (795名)	2003年 (631名)	2008年 (419名)
基本的なあいさつやお礼ができるようにしつけている	85.5	87.8	86.8	88.8	84.5	86.8	84.8	85.0
一人でできることは、できるだけ自分でさせるようにしている	75.6	73.8	76.1	71.6	77.1	77.4	72.7	73.5
友だちと仲よくするように教えている	73.2	73.5	76.0	73.6	71.8	74.6	69.3	70.2
朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活リズムが身につくようにしつけている*	56.4	◀ 70.7	59.0	◀ 72.8	53.8	◀ 67.4	54.0	◀ 68.5
手作り料理を食べさせるようにしている	40.7	< 50.6	41.1	◀ 51.1	42.7	< 51.6	34.7	◀ 46.5
家族で一緒に食事をするようにしている	42.8	< 48.2	39.6	44.3	46.4	51.1	47.5	< 56.1
安全で健康によい食材を選んでいる	21.0	< 29.6	22.8	< 30.7	17.1	< 27.0	21.4	< 28.4
テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ時間は決めている**	18.8	◀ 29.8	21.1	< 29.3	19.9	◀ 31.9	10.3	◀ 25.3
小学校入学までに読み書きができるよう心がけている	20.2	< 25.3	20.8	24.3	20.5	< 26.8	16.8	21.7
子どもが見るテレビ番組は決めている	16.0	20.7	18.3	22.6	12.8	16.9	13.9	< 19.6

注1) 複数回答。「その他」を含む19項目のうち、10項目を表示した。
 注2) *は、2003年調査では「朝起きる時間や夜寝る時間など生活リズムは規則正しくしつけている」。
 **は、2003年調査では「テレビゲームで遊ぶ時間は決めている」。
 注3) ◀▶は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。

●園選びで重視したこと

安心して働くためにも、子どもをどのような保育園や幼稚園に通わせたらよいのかは、働く母親の頭をつねに悩ませる問題だろう。近年、保育園の数が増えてはいる。しかし、地域によって異なるが、まだ待機児童が多く、働く母親は、保育園を選びたくても、それほど選べない状況ではあると思われる。母親はどのような基準で園を選んでいるのか。08年調査では、今子どもが通っている保育園や幼稚園を選ぶ際に、重視したことをたずねている。表2-1-3は全体と母親の就業状況別にみた経年変化を表している。全体については第1部第5章で分析しているのでここでは省くが、しつけや保育・教育内容を重視した園選びの傾向がみられた。

園選びで重視したこととして、働く母親は専業主婦と比べて、3つの特徴がみられる。

1つ目は、常勤の母親は、長時間あずけられること、給食があることをとても重視していることである。

2つ目は、同じ働く母親であっても、パートやフリーの母親と常勤の母親とでは、園選びの基準が異なることである。たとえば、「長時間あずかってくれる」は、常勤の母親では第2位となっているが、パートやフリーの母親では第8位となっている。パートやフリーの母親は、時間的な拘束が常勤の母親ほど厳しくないため、長時間あずけられることは園選びにあたってはそれほど重要な条件としなくてもよいのかもしれない。また、「保育内容・教育内容がよい」が、常勤の母親では第7位であるのに対して、パートやフリーの母親は、専業主婦と同様に第3位となっている。どちらかというと、パートやフリーの母親が園選びで重視したことは、専業主婦と常勤の間に位置している。

また、常勤の母親には、前節で述べたように、非正規雇用者も含まれているので、雇用形態が異なる常勤の母親がおそらく若干違った基準で園選びをしているのではないかと推測される。

3つ目は、03年調査と比べて、パートやフリーの母親、常勤の母親ともに、保育・教育内容、しつけを重視するようになってきたことである。「保育内容・教育内容がよい」をみると、数値的には、まだ専業主婦のほうが高い。しかし、パートやフリーの母親と常勤の母親もこの5年間でそれぞれ10ポイント以上増加している。一方、「親の通勤に便利」はそれぞれおよそ5～9ポイント減少している。働く母親が、自分の仕事の都合より子どものことを優先している姿がうかがえる。

働く母親が園選びで重視したことについて、この5年間の変化の特徴を一言でいえば、子どものしつけや教育を重視した園選びになってきたということであろう。

上記の通り、いくつかの調査結果から、働く母親の子育てに関する意識について述べてきた。ここから子育てに関する行動の代表として子どもの習い事のデータを取りあげたい。

子どもが習い事をしている比率について、この5年間の全体および母親の就業状況別にみた数値の変化を図2-1-1に示した。全体をみると、03年調査と比べ、若干増加している傾向がみられた(3.2ポイント増)。専業主婦に関しては、もともと比率が高いこともあって、ほぼ数値の変化がなく、7割弱が習い事をしている。一方、パートやフリー、常勤の母親をもつ子どもが習い事をしている比率は増加していることがわかる(パートやフリーの母親7.7ポイント増、常勤の母親4.3ポイント増)。数値的には、まだ専業主婦のほうが高いが、この5年間で、習い事に熱心な働く母親が増えていることには間違いまいだろう。

これまで働く母親の子育て意識や行動について、経年変化を中心にみてきた。これらのデータを通して、やはりこの5年間で、子どものことを大切にし、子どものしつけや教育に熱心な働く母親が増えていることが明らかである。

しかし一方、働く母親はさまざまな悩みや問題を抱えていることも今回の調査結果からわかってきた。

表 2-1-3 幼稚園や保育園を選ぶ際、重視したこと（経年比較 首都圏全体・母親の就業状況別）

(%)

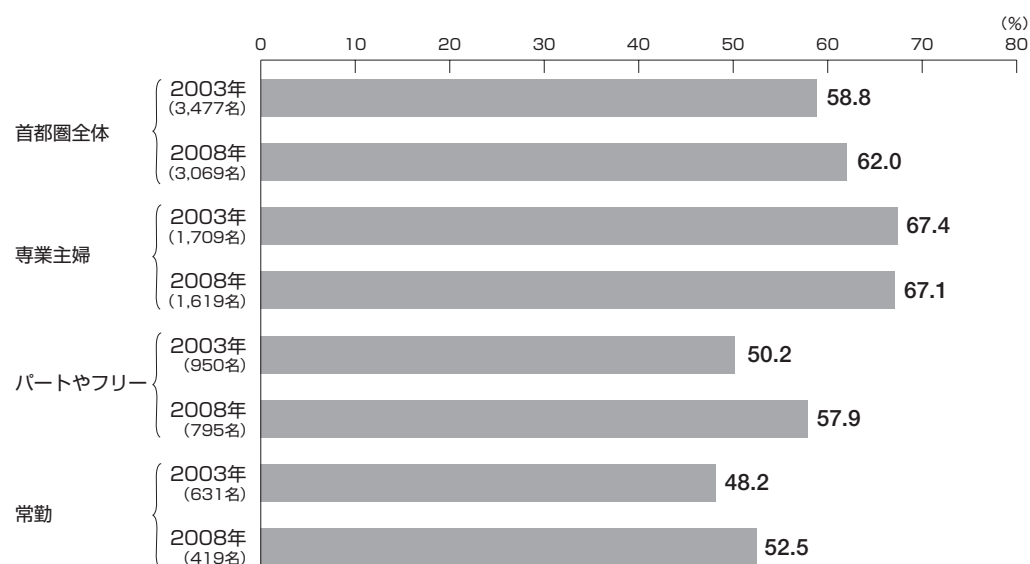
	首都圏全体		専業主婦		パートやフリー		常勤	
	2003年 (3,477名)	2008年 (3,069名)	2003年 (1,709名)	2008年 (1,619名)	2003年 (950名)	2008年 (795名)	2003年 (631名)	2008年 (419名)
家から近い	65.6	65.2	62.3	64.4	67.4	65.6	73.2	69.0
雰囲気が良い	52.0	56.8	57.9	61.9	49.5	53.3	43.6	44.3
保育内容・教育内容が良い	29.5	< 38.3	33.4	< 40.4	26.6	≪ 37.3	22.5	≪ 32.9
園長や先生が信頼できる	32.4	< 37.4	33.2	< 38.2	32.4	36.6	30.4	33.2
評判が良い	37.3	33.1	37.3	> 32.3	38.9	34.4	35.1	31.6
見学のときの印象が良い	25.1	< 32.4	30.0	< 36.7	19.1	< 27.4	20.7	< 28.2
給食がある	24.1	28.9	16.8	< 22.0	32.9	36.2	30.4	< 38.9
費用が安い	22.5	26.0	31.5	36.1	18.7	18.5	5.7	5.7
通園バスがある	18.7	22.9	26.0	27.4	14.9	< 20.4	7.3	10.8
長時間あずかってくれる	21.3	18.6	6.4	7.5	27.8	> 22.3	50.3	50.6
しつけがしっかりしている	8.5	< 17.6	7.7	≪ 17.9	9.0	< 17.6	8.9	< 15.2
わか家の教育方針にあう	18.8	17.0	25.8	> 20.8	15.5	15.1	6.3	8.2
親の通勤に便利	19.1	> 13.8	2.1	1.6	26.6	21.8	52.1	> 43.4
施設や遊具が充実している	12.9	13.6	10.9	10.5	14.8	14.6	16.2	20.6
園で習い事ができる	5.4	8.4	5.2	6.7	6.1	< 11.2	5.1	9.2

注1) 複数回答。「その他」を含む23項目のうち、15項目を表示した。

注2) 「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」の質問で、「よく考えた」「まあ考えた」と回答した人のみ分析した。

注3) ≪≫は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。

図 2-1-1 習い事をしている割合（経年比較 首都圏全体・母親の就業状況別）



(2) さまざまな悩みや問題を抱えている働く母親

● しつけや教育の情報源

まず、しつけや教育の情報はどこから（だれから）得ているのかをたずねたところ、図2-1-2のような結果になった。働く母親の特徴をみると、2つのことがわかる。

1つ目は、常勤の母親がパートやフリーの母親より「自分の親」に頼っている傾向がみられることである。パートやフリーの母親も常勤の母親も「自分の親」が上位3位までに入っている。ただし、パートやフリーの母親では、「自分の親」が第2位（62.4%）で、常勤の母親では第1位（70.4%）となっている。両者は8.0ポイントの差である。また、常勤の母親の上位3位までの項目をみると、第1位「自分の親」（70.4%）、第2位「園の先生」（56.6%）、第3位「近所の友人・知人」（44.6%）であるが、第1位と第2位では13.8ポイントの差が開いている。

2つ目は、パートやフリーの母親と常勤の母親では専業主婦と違い、「配偶者」より「園の先生」を選択した比率が高いことである。言い換えれば、「配偶者」より「園の先生」に頼っている傾向である。

また図2-1-2から、専業主婦は、人だけではなく、「育児・教育雑誌」や「新聞」「通信教育の親向けの冊子」といったさまざまなルートからしつけや教育の情報を収集していることがわかる。一方、働く母親、とくに常勤の母親は、専業主婦と比べて情報源が少なく、身近な人、中でもとくに自分の親に頼っている様子がうかがえる。

● 悩みや気がかり

子育ての悩みや気がかりを母親の就業状況別にみると、母親の抱える悩みの内容に差がみられる（表2-1-4）（項目の追加があったため、ここでは03年調査と08年調査のみで比較している）。

08年調査では、子育ての悩みや気がかりの

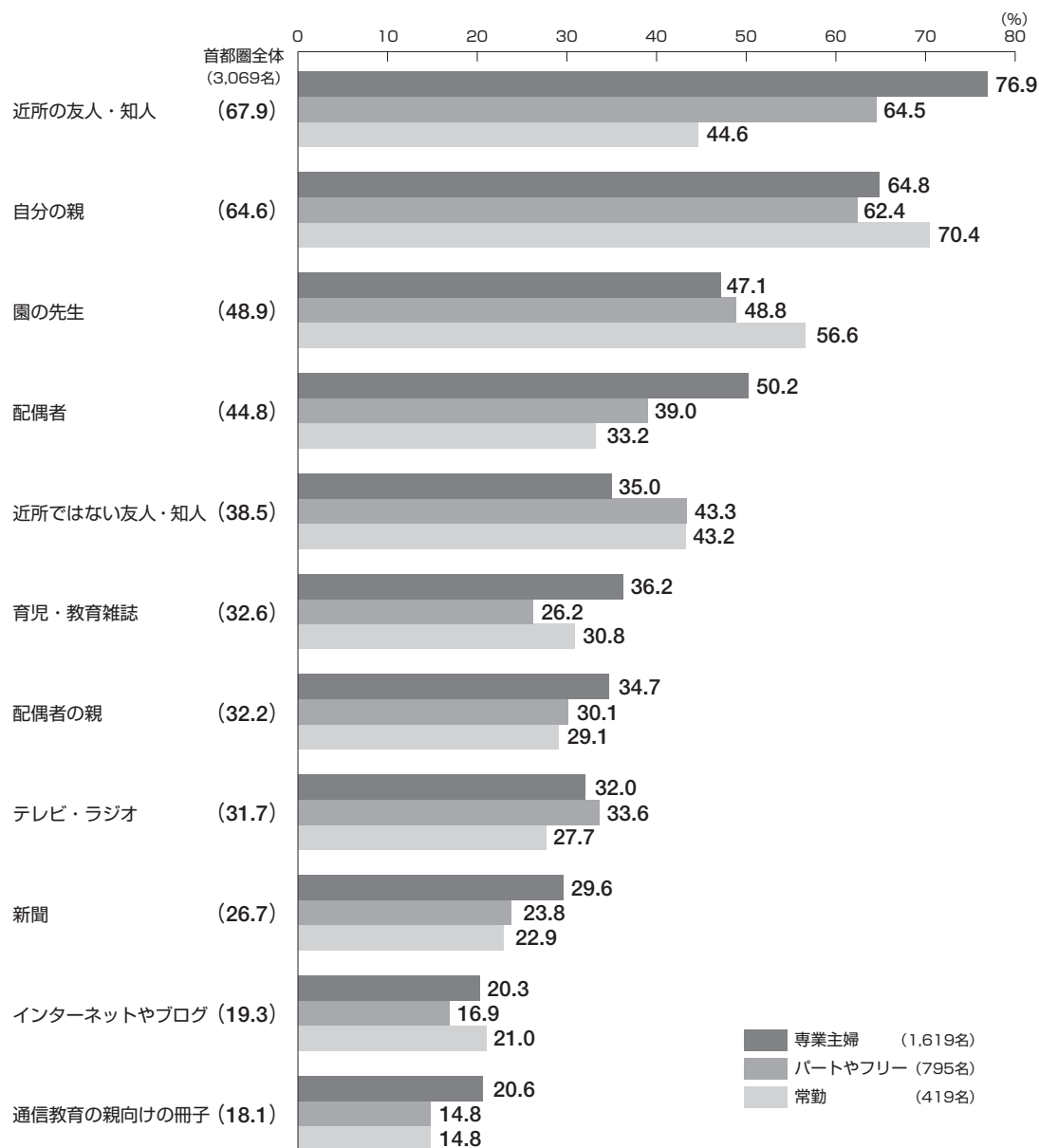
上位5位の中で、03年調査と同様に、第1位にはどのグループでも「犯罪や事故に巻き込まれること（「犯罪や事故」、以下同）」があげられた。専業主婦の母親は、第2位「ほめ方・しかり方」、第3位「しつけのしかた」、第4位「友だちとのかかわり」となっている。5年前と比べて順位は若干変わるが、同じ項目が並んでいる。また第5位には「食の安全性」が08年調査で新たに入った。第1位の「犯罪や事故」は、08年調査では03年調査に比べて4.5ポイント減少したが、第2位から第5位までは増加している。いずれも、ほぼ半数以上が選択しており、働く母親と比べて選択する比率が全体的に若干高い傾向にある。

パートやフリーの母親は、専業主婦とほぼ同様の傾向で、第1位から第3位までは順位は変わるが03年調査と同じ項目である。5年前に第5位であった「量や栄養バランスを考えた食事の与え方」はなくなり、第5位に「友だちとのかかわり」が入った。悩みや気がかりの上位5位までの内容は専業主婦と似ているが、選択率はパートやフリーの母親のほうが若干低い傾向にある。

常勤の母親の場合、5年前と項目がやや入れ替わっている。03年調査で第5位以内であった「仕事に関すること」がなくなり、「ほめ方・しかり方」「友だちとのかかわり」が新たに入っている。

また、5年前と比較して5ポイント以上増加した項目数をみると、常勤の母親は全45項目中9項目、パートやフリーでは2項目、専業主婦では5項目となっている。図2-1-3に、常勤の母親の悩みや気がかりを示している（全45項目のうち上位15項目）。日常のしつけや生活に関することを中心に、多くの項目で母親の悩む割合は増加しており、悩みや気がかりの種類が多様化している様子がうかがえる。

図 2-1-2 しつけや教育の情報源（首都圏全体・母親の就業状況別）



注) 複数回答。「その他」を含む21項目のうち、11項目を図示した。

表2-1-4 子育ての悩みや気がかり（経年比較 母親の就業状況別）

専業主婦		2003年		2008年	
1位	犯罪や事故に巻き込まれること	79.5	79.5	犯罪や事故に巻き込まれること	75.0
2位	ほめ方・しかり方	51.1	51.1	ほめ方・しかり方	57.2
3位	友だちとのかかわり	49.8	49.8	しつけのしかた	54.6
4位	しつけのしかた	48.3	48.3	友だちとのかかわり	49.7
5位	量や栄養バランスを考えた食事の与え方	44.1	44.1	食の安全性	47.9

注) サンプル数は、2003年1,709名、2008年1,619名。

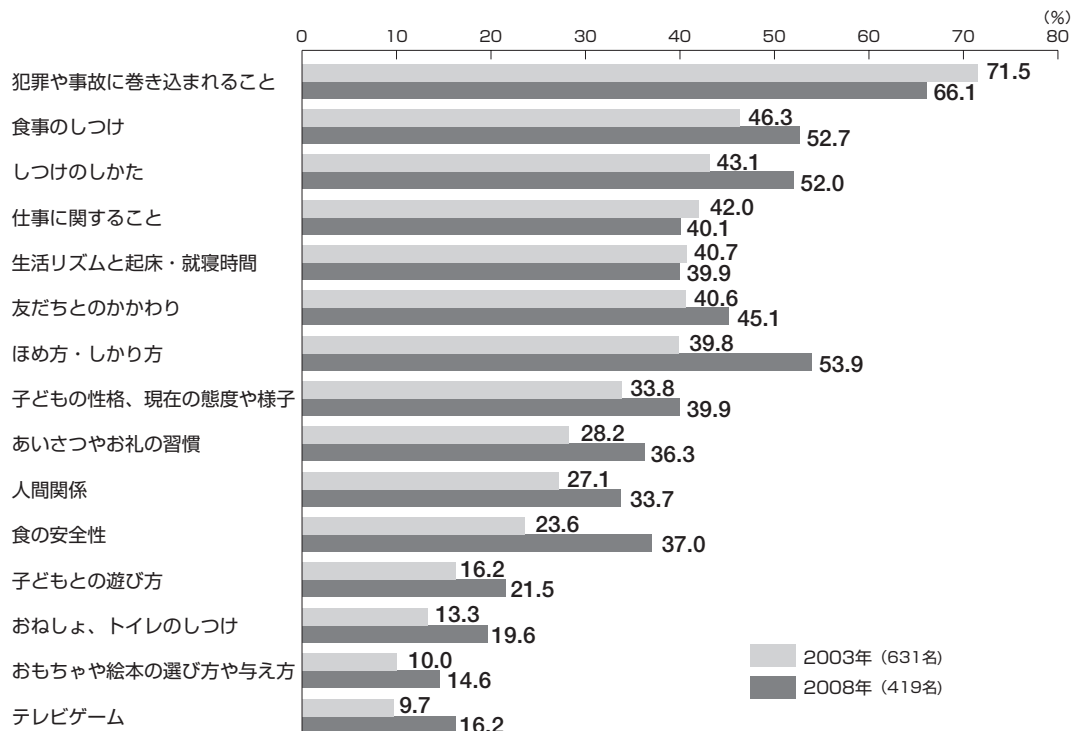
パートやフリー		2003年		2008年	
1位	犯罪や事故に巻き込まれること	72.6	72.6	犯罪や事故に巻き込まれること	73.2
2位	しつけのしかた	46.4	46.4	ほめ方・しかり方	52.6
3位	ほめ方・しかり方	44.4	44.4	しつけのしかた	48.2
4位	食事のしつけ	42.8	42.8	食事のしつけ	45.9
5位	量や栄養バランスを考えた食事の与え方	42.6	42.6	友だちとのかかわり	42.9

注) サンプル数は、2003年950名、2008年795名。

常勤		2003年		2008年	
1位	犯罪や事故に巻き込まれること	71.5	71.5	犯罪や事故に巻き込まれること	66.1
2位	食事のしつけ	46.3	46.3	ほめ方・しかり方	53.9
3位	しつけのしかた	43.1	43.1	食事のしつけ	52.7
4位	量や栄養バランスを考えた食事の与え方	42.3	42.3	しつけのしかた	52.0
5位	仕事に関すること	42.0	42.0	友だちとのかかわり	45.1
				量やバランスを考えた食事の与え方	45.1

注) サンプル数は、2003年631名、2008年419名。

図2-1-3 子育ての悩みや気がかり（経年比較 常勤）



注) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、15項目を図示した。

● 帰宅時間、働く時間、 子育てをしながら働くこと

働いている母親（パートやフリーと常勤）に、仕事から帰宅する時間についてたずねた（図2-1-4）。18時までに帰宅するのは、常勤で約4割（「14時より前」＋「14時～17時」＋「17時～18時」の%）、パートやフリーで約8割となっている。常勤では、帰宅時間のピークは「18時～19時」で、全体の約4割を占める。保育園の延長保育などを利用して、19時くらいまでを目安に子どもを迎えに行く母親が多いと推測できる。

1週間に働いている時間（図2-1-5）では、常勤の母親の約6割は、週「35時間以上45時間未満」となっている。週5日勤務の場合、1日7～9時間の就労となる。週「45

時間以上」勤務している人は、2割弱を占めている。一方、パートやフリーの母親では、週「15時間未満」の勤務が24.0%、「15時間以上25時間未満」が33.7%、「25時間以上35時間未満」が21.9%と、就労時間にはかなりばらつきがあるが、週「35時間以上」勤務が9.3%（「35時間以上45時間未満」＋「45時間以上」の%）もいることも見逃せない。

子育てをしながら働くことの負担感についてたずねたのが図2-1-6である。パートやフリー、常勤のどちらも、5年前と比べて大きく変わっていない。常勤の母親では、子育てをしながら働くことの負担感は約8割（「とても負担」3割＋「少し負担」5割、以下同）を占めているが、パートやフリーの母親では、約6割（1割＋5割）である。

図2-1-4 母親の仕事からの帰宅時間（母親の就業状況別）

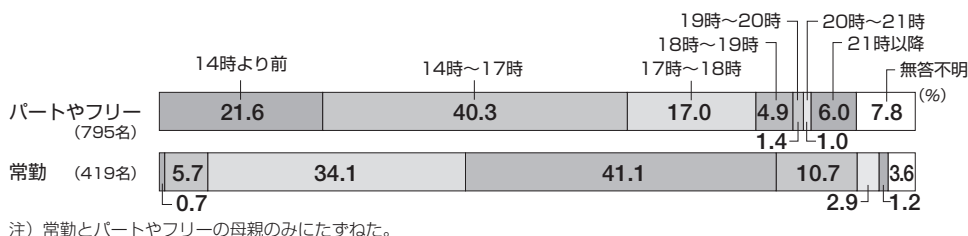


図2-1-5 母親の1週間の就労時間（母親の就業状況別）

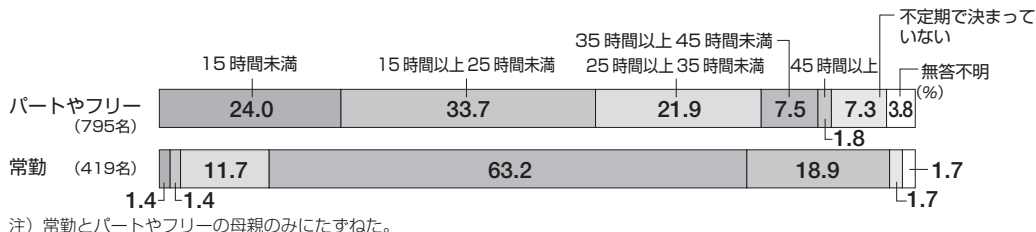
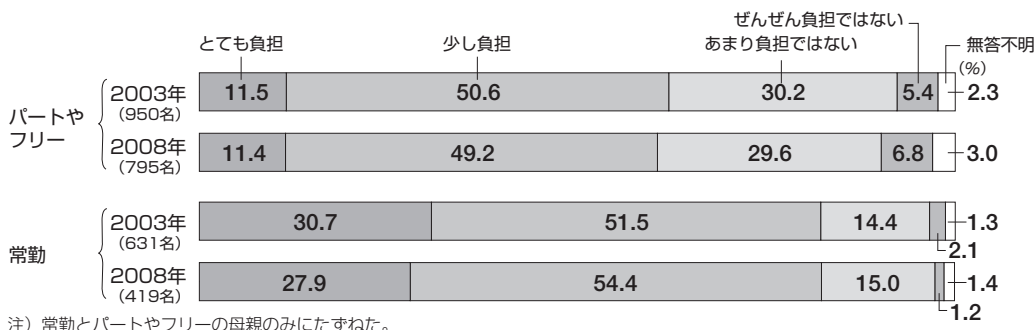


図2-1-6 子育てをしながら働くことの負担感（母親の就業状況別）



●子どもとのかかわり

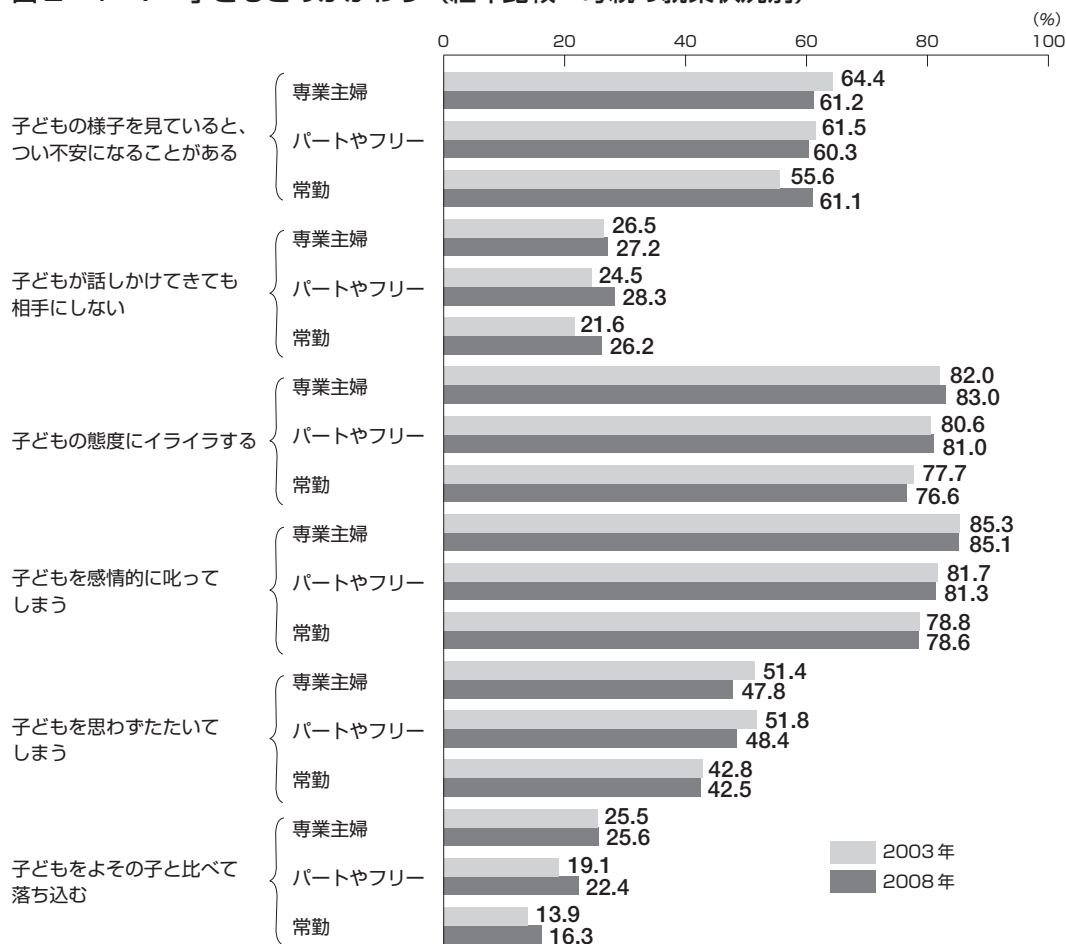
日ごろの生活の中でどれくらいあるかをたずねた全13項目のうち、子育ての不安に関する6項目につき、母親の就業状況別の傾向をみたものが図2-1-7である。「子どもの様子を見ていると、つい不安になることがある」では、03年調査に比べて、専業主婦では「よくある」+「時々ある」が3.2ポイント減少しているが、常勤の母親では5.5ポイント増加している。また、「子どもが話しかけてきても相手にしない」では、パートやフリー、常勤の母親で「よくある」+「時々ある」が増加している。その他の項目については、ど

のグループも03年調査の数値とほぼ変わらない。全体的にみて、専業主婦の子育て不安は減少しているが、常勤の母親の不安は増加しており、ストレスに関連する行動の割合も高まっているといえよう。

●子育てやしつけに関する意識

子育てやしつけに関する意識(図2-1-8)をみると、03年調査と比べて「いい母親であろうとして、かなり無理をしている」と感じている常勤の母親が増加している傾向にある(3.7ポイント)。また「自分は子育てに向いている」では、専業主婦とパートやフリ

図2-1-7 子どもとのかかわり(経年比較 母親の就業状況別)



注1) 13項目のうち、育児不安に関する6項目を図示した。

注2) 「よくある」+「時々ある」の%。

注3) サンプル数は、専業主婦(2003年1,709名、2008年1,619名)、パートやフリー(2003年950名、2008年795名)、常勤(2003年631名、2008年419名)。

一の母親で若干増加しているが、常勤の母親は減少している（4.8ポイント）。「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい」では、就業状況にかかわらず、5年前と比較してほとんど変化はみられず、専業主婦が約7割、パートやフリーの母親が約5割、常勤の母親が約3割であった。

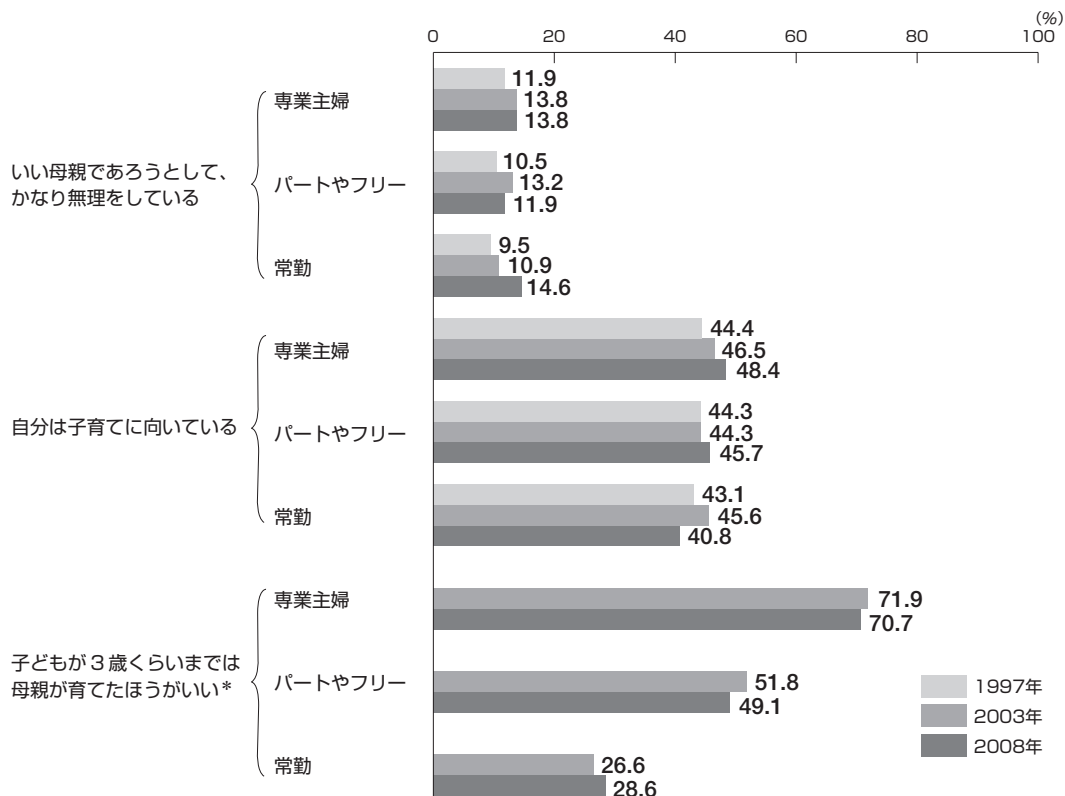
また、毎日の子育ての楽しさを就業状況別にみると（図2-1-9）、03年調査からあまり変化はないが、「とても楽しい」については専業主婦で増加している。常勤、パートやフリーの母親には、子育ての楽しさに変化はみられなかった。

● 母親自身の生活満足度

「ひとりの人間として」の満足度を母親の就業状況別にみると（図2-1-10）、専業主婦とパートやフリーの母親で5年前、11年前よりもやや上昇しているが、常勤の母親には、ほとんど変化がみられない。

「母親」として、「妻」としての満足度には、就業状況にかかわらず、いずれも変化はみられなかった。「働く（活動する）女性」としての満足度は、専業主婦とパートやフリーの母親で、11年前よりもそれぞれ8.8ポイント、8.5ポイント増加している。常勤は、4.4ポイント減少している。

図2-1-8 子育てやしつけに関する意識（母親の就業状況別）

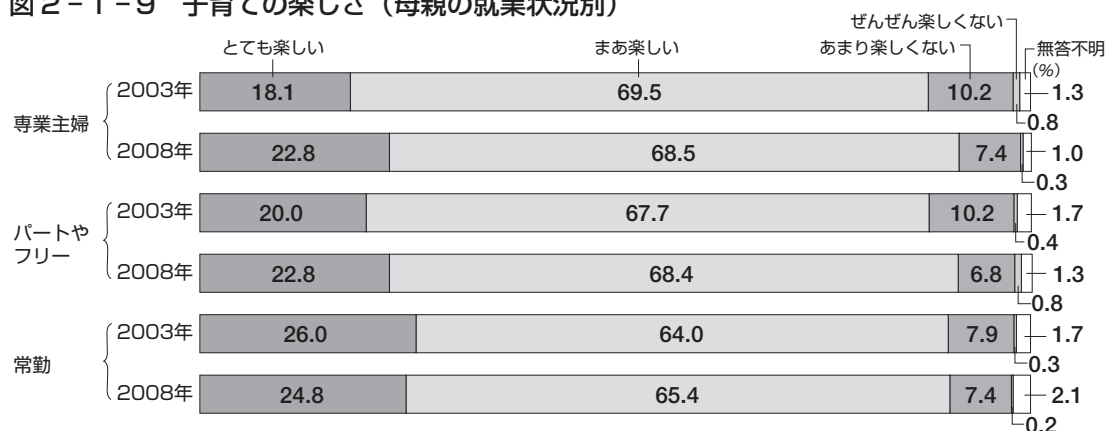


注1) サンプル数は、専業主婦（1997年1,379名、2003年1,709名、2008年1,619名）、パートやフリー（1997年648名、2003年950名、2008年795名）、常勤（1997年357名、2003年631名、2008年419名）。

注2) *は、1997年調査では対となっている質問の文言が異なっており、正確に比較できないため、図示しない。

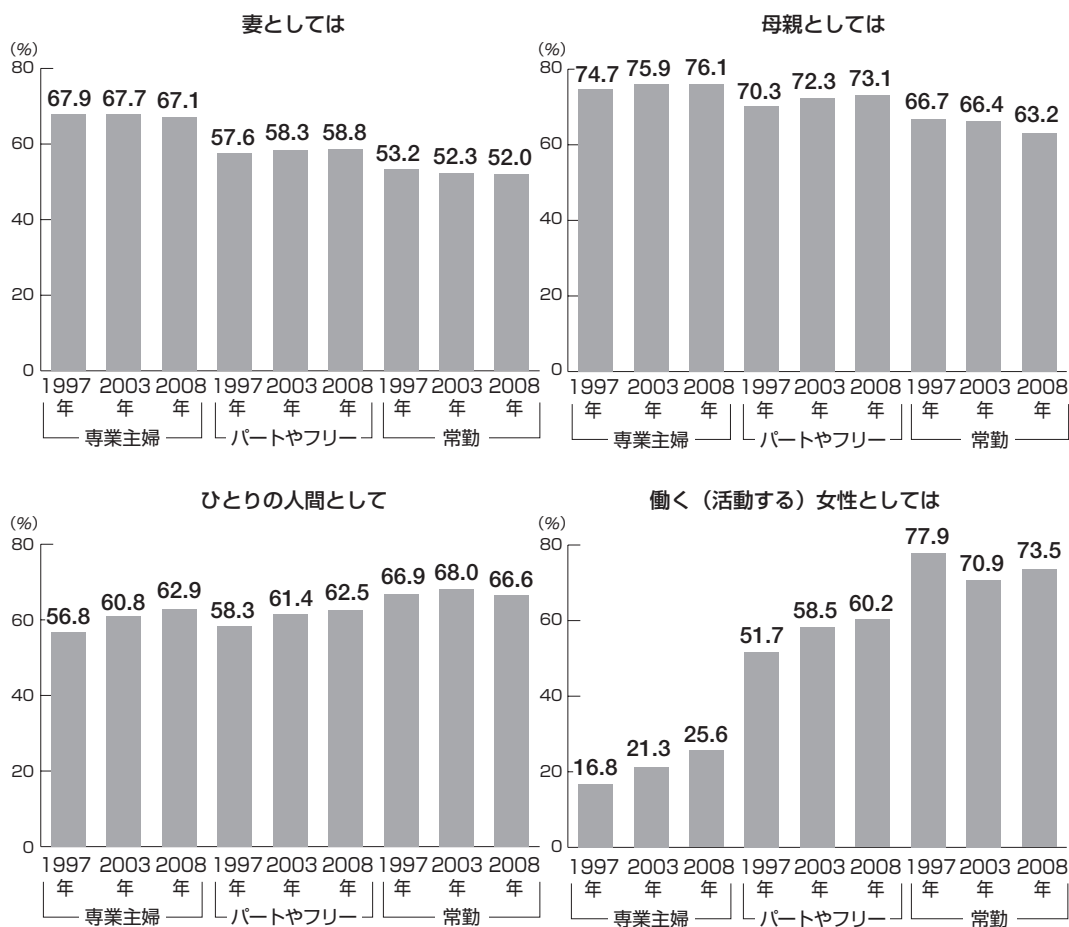
(1997年調査：A. 子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい
B. 必ずしも母親でなくても、愛情をもって育てればいい)
2003年、2008年調査：A. 子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい
B. いつも母親と一緒になくても、愛情をもって育てればいい)

図2-1-9 子育ての楽しさ（母親の就業状況別）



注) サンプル数は、専業主婦（2003年1,709名、2008年1,619名）、パートやフリー（2003年950名、2008年795名）、常勤（2003年631名、2008年419名）。

図2-1-10 母親自身の生活満足度（母親の就業状況別）



注1) 「かなり満足している」+「まあ満足している」の%。

注2) サンプル数は、専業主婦（1997年1,379名、2003年1,709名、2008年1,619名）、パートやフリー（1997年648名、2003年950名、2008年795名）、常勤（1997年357名、2003年631名、2008年419名）。

働く母親の状況のまとめ

● 常勤の母親

常勤の母親では、子育てをしながら働くことの負担を感じるのは約8割（「とても負担」＋「少し負担」の％）で、5年前と比べてほぼ変わらない。帰宅時間のピークは「18時～19時」（08年調査）で、2割弱が19時以降に帰宅している。

子育てについては、しつけや教育に熱心になっている一方で、子育ての不安感も高まっている。常勤の母親の子育て意識に関する項目では、「いい母親であろうとして、かなり無理をしている」傾向が強くなっている。

また、子育ての行動面では、子どもの習い事が5年前に比べて増えたり、園の選択では、子どものしつけや教育内容をより重視するようになってきている。しつけや教育の情報源では、自分の親に頼る傾向がみられ、専業主婦よりも情報ルートは少ない。「子どもの様子を見てみると、つい不安になることがある」「子どもが話しかけてきても相手にしない」の増加から、子育てストレスが高くなっていると思われる。

「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい」という考え方についても、28.6％（08年調査）が肯定的に回答しており、5年前と比べてほとんど変わっていない。

一般的には、仕事の負担に加えて、子育て意識は高まっており、子育てに関する活動も増えたことによってさまざまな負荷や不安が増加しているようだ。また、しつけや教育の情報源のルートは少なく、生活の満足度は下がっている傾向がみられる。

● パートやフリーの母親

パートやフリーの母親では、子育ての悩みは、専業主婦とほぼ同じ傾向を示しているが、子育ての不安感はずっとも少ない。子どもが

習い事をする割合は、常勤の母親と同様に5年前よりも増加している。園の選択では、保育内容や教育内容を重視している。しつけや教育の情報源では、常勤の母親ほどではないが、自分の親に頼る傾向がみられ、情報ルートは少ない。全般的に、しつけや教育に熱心になっている傾向がみられる。

仕事（働く女性として）の満足度は03年調査と比較して上昇している。子育てをしながら働くことの負担感は、約6割（「とても負担」＋「少し負担」の％）である。「とても負担」は約1割であり、「少し負担」が全体の約半数である。帰宅時間のピークは「14時～17時」で、17時までに帰宅する人が61.9％を占める（08年調査）。仕事と子育てや自分の活動をバランスよく楽しんでいる様子がうかがえる。

● 専業主婦の母親

専業主婦の母親は、子育ての悩みについては5年前とほぼ変わらないが、「食の安全性」が増加した。子育てで心がけているのは食への配慮（手作り料理）や子どもに規則的な生活リズムを身につけさせることである。園選びでは、働く母親と同様に、子どものしつけや教育内容を重視している。しつけや教育の情報源では、パートやフリー、常勤の母親とは異なり、多様なルートを使って子育て情報を集めている傾向がうかがえた。

子育て意識では、「自分は子育てに向いている」が若干増加しており、子育ての不安に関する数値は逆に減少の傾向である。「ひとりの人間として」の総合的な生活満足度や「働く（活動する）女性としては」の生活満足度は増加しており、子育てを中心として、幅広いネットワークを作り、子育てを楽しんでいる様子がうかがえる。